

令和3年度 ロームシアター京都 指定管理業務 自己評価書

公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

1 業務概要

リニューアルオープンから6年となるロームシアター京都は、令和3年度においても、各施設の特性を生かした舞台芸術公演や式典、集会、MICEといった様々な催しで、多くの方にご利用いただく予定となっております。しかしながら、令和2年から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、開催自粛や海外からの出演者の来日が不可能となったりするなど、催しのキャンセルや内容変更が相次ぎました。また、緊急事態宣言に伴う臨時休館により、利用の取止をお願いする事態も生じたため、利用日数や利用料金収入、また来場者数といった実績は目標を下回る結果となりました。

ロームシアター京都は多くの人が同時に空間を共有する場であるため、施設や催しの特性に応じた適切な感染拡大防止対策を確実に実施することで、文化芸術の創造・発信拠点として当施設が担っている役割を果たし、文化芸術都市・京都のまち全体の発展に引き続き寄与していくため、令和2年度に策定した「ロームシアター京都における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」を引き続き運用し、感染拡大防止に努めながら催しが開催できるよう工夫しました。さらにサーモグラフィー等の機材・設備等の適切な運用の他、場内サービス等についても感染症の状況を踏まえた運用の見直しを積極的に行い、安全、安心で快適な劇場空間を提供いたしました。

自主事業では、本年度は、より一層「世界市民のための劇場」になるべく、劇場文化の創出に努めました。『つながり（交流）』を全事業の包含する要素として位置づけ、『つくり（創造）』、『育て（育成）』、『活かす（生活）』有機的なサイクルを作り上げるべく、取組んでまいりました。本年度のプログラムテーマを「声」とし、停滞した舞台芸術活動を再開し、自分たちの「声」＝表現を取り戻そうと、制限のある上演・創作環境のなかでも場をつくり出し、観客との関係をあきらめないアーティストたちとの協働によってプログラムを展開しました。

事業実施にあたっては、洋の東西を問わず世界水準の優れた作品をお届けすることはもちろん、劇場の財産となる作品のプロデュースや次代を担う芸術家の育成に国際的な視点で取り組むとともに、更にロームシアター京都が開かれた場として、人々の交流を活性化させるべく、京都の様々な施設や団体と連携しながら、地域に根をおろしていく事業を展開しました。あわせて、賑わいスペース事業やミュージックサロン事業等により、賑わいの創出や身近に文化芸術に親しむための取組を進めました。

しかしながら、令和2年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、いくつかの事業を中止・延期せざるを得ませんでした。本年度においても、ただ公演を中止にするのではなく、オンライン配信や映像上映会の実施等、新たな手法への挑戦を引き続き試みました。

本年度においても、指定管理業務の計画を作成した時とは全く状況が変わっており、実績等において、大きく下回っているものもありますが、適切な感染防止対策や事業実施の工夫等により、施設の役割を継続して担っていくことができたものと考えています。

以上を前提として、本評価書では、指定管理業務の実施状況について、自己評価の視点から報告します。

2 事業に関すること

(1) 概要

令和3年度は、32事業83公演7講座を計画し、うち10事業15公演2講座については、

新型コロナウイルス感染症の影響により、中止もしくは次年度以降延期としましたが、その他については実施できました。

自主事業の総入場者数は35,499人でした。

自主事業（主催事業・共催事業）の詳細は、以下、各項目ごとに、提案書記載の事業を中心に、実施した事業の特色や課題について記載します。

（２）文化芸術の創造及び振興に関する業務

① 自ら企画・制作する作品の上演

ロームシアター京都が自ら企画・制作する作品の上演として、「レパトリーの創造」シリーズを継続し、本年度は、鋭い感性と確かな筆力を高く評価され、第64回岸田國土戯曲賞を受賞した、才能あふれる新世代の劇作家・演出家、市原佐都子の代表作「妖精の問題」の再創作をプロデュースしました。本作品は、京都での初演ののち、東京公演も開催され、令和4年度には、久留米公演も予定されています。

同シリーズの公演として令和2年に実施した、ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ「ショールームダミーズ #4」はヨーロッパを代表する芸術祭のひとつであるフェスティバル・ドートンヌ・ア・パリに招聘され、ポンピドゥー・センターでのパリ公演が実現しました。ロームシアター京都製作の舞台の初海外公演となり、ロームシアター京都からもスタッフが現地へ赴いたほか、渡航費などについてはクラウド・ファンディングへの挑戦も行い、多くの方々から目標額を超える支援をいただき成功させることができました。

（主な事業）

- ・レパトリーの創造
市原佐都子/Q 「妖精の問題デラックス」
- ・レパトリー作品 「ショールームダミーズ #4」（パリ招聘公演）

② 外部の文化芸術団体等と協同し制作する作品の上演

「宮古・八重山・琉球の芸能」は、令和3年10月に開館した那覇文化芸術劇場なは一ととの共同企画として計画し、現地の文化芸術団体と協同し公演準備を進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、公演を中止し、令和4年度に延期しました。

（主な事業）

- ・「宮古・八重山・琉球の芸能」（新型コロナウイルス感染症拡大を受け、公演延期）

③ 芸術性の高い舞台芸術作品の招聘

本年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外アーティストが入国するにあたっての規制が続いており、ロームシアター京都が計画していた招聘公演についても多くを中止とせざるを得ませんでした。なかでも、太陽劇団「金夢島 L' ÎLE D' OR」、ウィリアム・フォーサイス「Three Quiet Duets」といった大型招聘公演に対しては、お客様から大きな期待をいただいておりますが、中止という残念な結果となりました。なお、ピチュ・クランチェン・ダンスカンパニー「No. 60」の上演は令和3年12月から令和4年3月に延期の上、主催事業としては約15ヶ月ぶりの海外作品招聘公演として実施することができました。

京都国際舞台芸術祭(KYOTO EXPERIMENT)では、海外との交流が厳しい状況下ではありましたが

が、本年度も、当財団は同祭の実行委員会の中核団体として、また、劇場は主会場の一つとして、実験的な作品の上演や国内外の交流の場の実現に寄与できたと考えています。

年5回実施している市民寄席は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で日程を変更した回もありましたが、計画した5回を全て実施することができました。

(主な事業)

- ・ KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2021
- ・ 第355回～第359回 市民寄席
- ・ ピチュ・克蘭チェン「No.60」
- ・ ウィリアム・フォーサイス (中止)
- ・ 太陽劇団 (中止)

④鑑賞者、製作者、舞台技術者等の育成を目指した事業

「新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室」は、感染症拡大防止対策を踏まえ、本年度も事前レクチャーコンサートは実施しませんでした。本公演は無事開催することができました。また、小澤征爾音楽塾については、新型コロナウイルス感染症に伴う膨大な手続きや調整を経て、3年ぶりに海外キャストを含めた形で上演を実現することができました。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況下ではありましたが、大型のオペラ公演を2作品上演することができ、また、小澤征爾音楽塾においては、「子どものためのオペラ」も開催できたため、多くの観客の方に鑑賞いただき、あわせて鑑賞者等の育成にも寄与できたと考えています。

京都芸術センターと共同で実施している「KIPPU」については、本年度は選出された2名の公演を計画しましたが、うち1名については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和4年度に延期としました。創作の場・上演の場のそれぞれを支援する本プログラムは、若手アーティストを支援するプログラムとして広く知られるようになってきたと思われませんが、実際の応募者数を増やすため取組み等を工夫してくる必要もあると考えています。

また、「劇場の学校プロジェクト」は、本年度も、演劇、舞踊、メディア表現の3コースを実施し、受講者からも好評を博しました。内容や方法等についてさらに工夫を重ねていき、次代を担う若者を育成する事業の柱としてさらに充実させていきたいと考えています。

京都薪能レクチャー「能の世界へおこしやす」は、感染症拡大の状況を踏まえ、京都薪能が中止となったことに伴い、中止としました。

(主な事業)

- ・ 小澤征爾音楽塾
- ・ 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021
- ・ ロームシアター京都×京都芸術センター U35 創造支援プログラム “KIPPU”
- ・ 劇場の学校プロジェクト
- ・ ロームシアター京都×京都市ユースサービス協会連携事業 未来のわたし
- ・ 能楽チャリティ公演 ～被災地復興、京都からの祈り～ (中止)
- ・ 京都薪能 レクチャー (中止)

⑤その他、劇場文化の形成を促進するプログラム

「プレイ！シアター」として例年行っている企画は、令和2年度は、オンライン配信中心のプログラムとして実施しましたが、本年度は、再び劇場を会場とする形で実施しました。海外招聘作品は来日が叶わず、代替の演目での開催となりましたが、その他の演目等も含め、多く

のお客様を劇場にお迎えすることができました。

舞台芸術に関わる研究・批評分野と実践の場をつなげる若手人材の育成を目的とした「リサーチプログラム」、また、現代社会を捉え直すトピックを基に専門家とアーティストが登壇する「いまを考えるトーク」についても、継続して実施することができました。また、記録等を冊子やインターネットで公開することにより、トークイベント等に来場できなかった方や、将来、関心を持たれた方にも生かしていただけるような工夫を引き続き行っています。

(主な事業)

- ・「プレイ！シアター in Summer 2021」
- ・ロームシアター京都 リサーチプログラム
- ・「いま」を考えるトークシリーズ vol.15～vol.18

(3) 憩いの場の提供に関する業務

賑わいスペース事業者として京都市に選定されたカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（以下、「CCC」という。）と調整・連携を図り、市民や観光客の皆様の新たな憩いの場となるパークプラザを中心に、ブック&カフェ、レストラン、キオスクといった常設の店舗が高い評価を得て運営されるよう努めました。劇場スタッフと店舗スタッフによる定例のミーティングなどにより、劇場の催し情報はもとより、美術館やみやこめっせ等の周辺施設の催し情報の収集・共有による商品の仕入れやスタッフの体制の細かな調整や、観光客の減少や地域の方の来店割合の増加等を踏まえた商品構成の見直し、また、SNS を活用したライブ配信等も引き続き行いました。

ただし、本年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響により、営業時間の短縮や臨時休業を行わざるを得ず、イベント等の取組についても例年どおりの内容や規模での実施が困難となりました。国内外からの観光客の激減なども続き、入店者数も大幅に減少した厳しい一年となりました。

賑わいスペース事業 店舗等の概要（通常）

事業内容	店舗名	営業時間
ブック&カフェ (パークプラザ1階)	京都岡崎 蔦屋書店 スターバックスコヒー	午前8時から午後10時
レストラン (パークプラザ2階)	京都モダンテラス	午前8時から午後11時
キオスク (サウスホール1階 ホワイエ内)	ファミリーマート	午前8時から午後10時
ギャラリー・ライブラリー (パークプラザ3階 共通ロビー内)	BOOK & ART GALLERIA	午前9時から午後7時 (開館時間等に応じて変更)

※新型コロナウイルス感染症の影響等により、本欄記載の時間から一時的に変更して営業をしています。また、臨時で休業した日があります。

店舗入店者数

区 分	令和3年度
入店者数の実績値	1,266,065 人

(4) 市内劇場文化の活性化に資する業務

上記「④鑑賞者、製作者、舞台技術者等の育成を目指した事業」にも記載の KIPPU により、創作や上演の場の提供や制作業務の支援等による若手アーティストの発掘や育成等を行うことで、市内劇場文化の活性化につながる取り組みを進めており、今後もこうした形で継続していくことが重要と考えています。

(5) その他施設の目的を達成するために必要な業務

① 広報

自主事業ラインアップ・リーフレット、催物カレンダーの作成、ホームページや SNS の運用、CCC と連携した取組、また、様々な広報媒体への働きかけ等により、多様な劇場への関心や関わり方、また情報の受け取り方等に応じた効果的な情報提供や話題作りを行うよう努め、ロームシアター京都の事業内容について理解していただくとともに、施設の認知度をさらに高める取り組みを進めました。特に、新型コロナウイルス感染症に関連した情報は、多くの方に確実に伝えることが重要であり、WEB サイト等の活用により工夫しました。

② 助成制度の活用等による事業の充実

企業からの協賛金や以前より獲得してきている文化庁等の助成金の他、新型コロナウイルス関連の新規助成金制度にも積極的に申請し獲得することで、事業の充実を図ることができました。また、ロームシアター京都と京都コンサートホール自主事業への寄付を広く求める制度として運用している賛助会員制度（サポーター・パートナー制度）についても、新型コロナウイルス感染症拡大による自主事業の減などの中、新規の会員獲得等は引き続き厳しい状況ではありましたが、既に会員である方に継続してご支援いただくための工夫等に努めました。

助成金等

助成事業名等	助成団体等
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021「ドン・パスクワレ」	(公財)ローム ミュージック ファンデーション
劇場・音楽堂等機能強化推進事業（公演）	文化庁
劇場・音楽堂等機能強化推進事業（人材）	文化庁
劇場・音楽堂等機能強化推進事業（普及）	文化庁
Arts for the future!	文化庁

協賛金等

事業名	協賛者名
プレイ！シアター in Summer 2021 オープンデイ	ローム株式会社
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021「ドン・パスクワレ」	ローム株式会社
京都市交響楽団×藤野可織 オーケストラストーリーコンサート 「ねむらないひめたち」	日東薬品ホールディング ス株式会社
配信事業「Style KYOTO」	(株) TOL

賛助会員数と寄附金額 (万円)

会員区分	令和3年度
スペシャルサポーター (法人)	2件 100
サポーター (法人)	17件 180
スペシャルパートナー (個人)	28件 149
パートナー (個人)	48件 96
合計	95件 525

※合計 525 万円について、ロームシアター京都と京都コンサートホールの2館で活用する。

③地域活性化等

「(3) 憩いの場の提供に関する業務」にも記載の店舗の運営やイベントの開催等、また、CCCが開設している京都岡崎 蔦屋書店のWEBサイト等による情報発信などにより、岡崎地域の魅力向上に向けた取り組みを進めました。また、京都岡崎魅力づくり推進協議会とも連携し、同協議会が発行する「京都岡崎コンシェルジュ」への催し情報の提供等を継続して行ってきました。

また、ローム・スクエアを会場に、地域の団体等とも連携し開催した催し「OKAZAKI PARK STAGE」では、企画内容や事業形態を工夫して実施し、地域の活性化にも寄与できたと考えています。

3 施設運営に関すること

(1) 概要

「1 業務概要」にも記載のとおり、リニューアルオープンから6年となるロームシアター京都は、令和3年度においても、各施設の特性を生かした舞台芸術公演や式典、集会、MICEといった様々な催しで、多くの方にご利用いただく予定となっております。しかしながら、令和2年から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、開催自粛や海外からの出演者の来日が不可能となったりするなど、催しのキャンセルや内容変更が相次ぎました。また、緊急事態宣言に伴う臨時休館により、利用の取止をお願いする事態も生じたため、利用日数や利用料金収入、また来場者数といった実績は目標を下回る結果となりました。

ロームシアター京都は多くの人が同時に空間を共有する場であるため、施設や催しの特性に応じた適切な感染拡大防止対策を確実に実施することで、文化芸術の創造・発信拠点として当施設が担っている役割を果たし、文化芸術都市・京都のまち全体の発展に引き続き寄与していくため、令和2年度に策定した「ロームシアター京都における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」を引き続き運用し、感染拡大防止に努めながら催しが開催できるよう工夫しました。さらにサーモグラフィー等の機材・設備等の適切な運用の他、場内サービス等についても感染症の状況を踏まえた運用の見直しを積極的に行い、安全、安心で快適な劇場空間を提供いたしました。さらに、新型コロナウイルス感染症対策をより一層進めるため、ロームシアター京都及び岡崎公園における環境衛生の維持・監理を目的として「ロームシアター京都環境衛生スーパーバイザー」を配置し、確実な対策の実施や迅速な対応につなげることができたと考えています。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、公演等の活動を休止した団体及び個人等に対し、令和3年11月から令和4年2月にかけて京都府文化団体等活動継続支援事業を活用した公演を募集し、施設利用料金等について京都府が負担とする活動支援を実施しました。

日数利用率

区 分		令和3年度
メインホール	利用率(日数)の目標値	82 %
	利用率(日数)の実績値	63 %
サウスホール	利用率(日数)の目標値	76 %
	利用率(日数)の実績値	63 %
ノースホール	利用率(日数)の目標値	73 %
	利用率(日数)の実績値	77 %

入場者数

区 分	令和3年度(人)
入場者数の目標値	330,000
入場者数の実績値	210,564

利用料金収入額

区 分	令和2年度(千円)
利用料金収入の目標値	346,296
利用料金収入の実績値	274,933

ジャンルごとの月別入場者数 (人)

月	音楽	舞踊	演劇	学会・会議	講演	その他	計
4月	5,556	856	10	0	250	680	7,352
5月	0	290	0	0	0	0	290
6月	8,596	981	3,156	30	0	612	13,375
7月	16,697	2,720	5,612	0	90	995	26,114
8月	8,974	3,712	202	0	0	1,448	14,336
9月	13,783	939	1,326	0	80	3,534	19,662
10月	9,796	320	81	450	0	1,490	12,137
11月	11,739	1,165	465	561	928	6,039	20,897
12月	9,345	836	13,329	0	0	3,019	26,529
1月	16,333	0	644	950	700	1,866	20,493
2月	3,805	1,718	191	0	650	2,629	8,993
3月	10,509	277	165	0	1,400	550	12,901
計	115,133	13,814	25,181	1,991	4,098	22,862	183,079

※上記は、メインホール・サウスホール・ノースホールの利用に係る入場者数である。
 ※入場者数について、自主事業は財団調べ、貸館事業は利用者（主催者）調べ。

(2) 施設等の利用許可に関する業務

京都市京都会館条例及び同条例施行規則に基づき、施設の利用許可や利用料金の徴収などを行いました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止等のため、施設利用を中止した利用者に対する利用料金の還付等についても行っています。

令和3年度 ホール利用受付件数

舞台芸術公演	その他催し	合計
335件	124件	459件

(3) 舞台運営に関する業務

より良い催しの実現のため、舞台技術スタッフが、貸館担当スタッフとともに、施設利用者へのサポートや安全管理等を実施しました。日常的な機材メンテナンスや保守業者による点検作業等を計画的に実施したほか、舞台機構、照明、音響などの専門スタッフが、適切な管理や支援、トラブル対応等により、催しが安全な状況で確実に開催される状況を適切に維持しました。

(4) 場内サービスに関する業務

ホールの催しにおいて、お客様と直接接し、入場管理、安全管理等を行うレセプション業務については、その人数や配置等について、施設利用者（主催者）とも細かい調整の上、実施しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、レセプションスタッフが身に着けるものや場内の案内表示等の物理的対策とともに、ご案内方法等の工夫も行い、安全で快適に過ごしていただけるよう努めました。

チケット販売のほか、来場者へ施設や公演の案内等を行っている総合案内においては、催しに応じた案内方法の工夫等を行っています。

なお、チケットについては、インターネットを活用した販売も行っており、インターネット経由で予約し、コンビニエンスストアでの発券を選択される方が多い一方、電話による予約やお問い合わせをされる方も多く、丁寧な対応を心がけました。新型コロナウイルス感染症による公演中止等に伴うチケット料金の返金等についても、貸館利用者からの受託販売分も含め、丁寧に対応してきました。また、利便性の向上や感染拡大防止を目的に、令和4年度からの導入に向け、電子チケットシステムの整備を進めました。

なお、ホール内のビューフェカウンターについては、原則として、営業を中止しましたが、類似施設の事例なども調査し、営業を再開するための検討を進めました。

(5) 施設設備及び備品の管理

当財団がこれまでの運営で把握してきた建物の特徴や設備の具体的な特性等に基づき、利用状況や季節変動等を踏まえた日常の設備運用や保守点検、備品管理等を工夫し、安全で効率的な施設運営に努めました。特に、電気設備や舞台設備、空調、楽器（ピアノ）といった、施設の運用に重大な影響を与える設備等については、予防保全の視点から、予め定期点検の日程を確保し実施しています。修繕等が必要となった場合には、速やかに対応するとともに、消耗品・備品等の管理も確実に進めています。その他の各種管理業務や各種有資格者の配置等についても計画通りに実施し、安心して利用できる施設環境を適切に維持しました。

(6) その他管理運営に関する事項

・命名権契約を踏まえた施設運営

適切な名称の使用や無償使用権への対応、広報スペースの運用等の命名権契約に定められている点を踏まえた運営に努めました。なお、広報スペースの一部であるミュージックサロンについては、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により展示の実施を見送りましたが、本年度は約7箇月の間、展示を実施しました。イベントに関しては、「ROHM CLASSIC SPECIAL トーク&コンサート」を4回、オンライン配信（ライブ、アーカイブ）し、多くの方にお届けしました。

4 事業執行体制等に関すること

(1) 人材の確保、配置、研修等

①職員数

提案書記載の計画をもとに、下記の体制で運営にあたりました。

区 分	計画（人）	令和3年度（人）
副館長	（1）	1
総務部長	（1）	1
管理担当	（14）	14
事業担当	（9）	8
舞台担当	（8）	8
計	（33）	32

②研修の実施

職員研修の実施実績	
令和2年度	・人事評価研修（管理職）

（2）再委託業務

特に専門性の高い分野の業務については、委託により実施しました。また、一部の業務については、利用者サービス向上の観点から、業務の安定的な実施と質の向上のため、契約期間を2か年とし、プロポーザル型の業者選定を行っています。それぞれの委託先とは日常的な情報共有や定期的な協議などにより、業務を円滑に実施できるよう努めています。主な委託業務は下記のとおりです。

委託内容	受託業者	業務内容
舞台管理運営業務 （2箇年契約）	京滋舞台芸術事業協同 組合	ホールの舞台、照明、音響の進行及び 運営管理（舞台設営・撤去、舞台設備管理等）
会場案内・ 場内整理業務 （2箇年契約）	(株)コングレ	会場案内・場内整理等
施設・設備の 保守管理業務 （2箇年契約）	近建ビル管理(株)	施設・設備の保守・管理（電気設備・ 空調設備・給排水衛生設備・消防設備・その他建物 に付属する機器等）
清掃業務 （単年契約）	(株)タクミサービス	施設・敷地内の日常清掃（ホール内、 各部屋、トイレ、ゴミ収集、屋外等）・定期清掃 （トイレ、床、ガラス窓）
警備業務 （単年契約）	国土警備保障(株)	施設屋内外の人的警備

（3）その他

ロームシアター京都に集う全ての人（職員、施設利用者、来館者、アーティストや出演者等）に対し、「劇場」において生じ得るハラスメント防止に努めるため、「ハラスメント防止ガイドライン ～ロームシアター京都に集う全ての人のために～」を策定し、運用を開始しました。

5 収支に関すること

本年度の支出規模は、約9億9100万円でした。新型コロナウイルス感染症拡大の影響による利用減に伴う利用料金収入の大幅な減などがありましたが、施設の稼働減に伴う支出減等もあり、収支差額は約35万円の赤字でした。

	令和3年度(千円)	
	予算	決算
収入の部		
指定管理料	367,018	406,726
利用料金収入	346,296	274,933
事業収入	268,991	217,708
その他収入	54,701	217,708
収入計	1,037,006	991,429
支出の部		
事業費	375,414	308,158
人件費	286,085	333,053
物件費	373,224	350,572
光熱水費	60,245	44,087
その他支出	312,979	306,485
支出計	1,034,723	991,784
収支差額	0	△355

6 まとめ

令和3年度は、ひきつづき、新型コロナウイルス感染症拡大への対応が施設運営に大きな影響を与えた一年でした。

自主事業においては、各事業の目的に沿った多様な事業を数多く実施できましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業数において約3分の一の事業で中止・延期をせざるを得ませんでした。しかし、メインホールで約1万3千人のお客様にご鑑賞いただいた演劇「アルトゥロ・ウイの興隆」のように、非常に多くのお客様にご来場いただけた公演もあり、開催できた事業において、劇場で鑑賞することへの期待を改めて感じた一年でもありました。

施設利用においては、催しのキャンセルや内容変更が相次ぎ、また、緊急事態宣言に伴う臨時休館により、利用の取り止めをお願いする事態も多数生じました。そうした状況下においても、利用が再開された際にすぐに対応ができるような人的体制や設備状況を担保するよう努め、また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための機材等の整備や、座席等の定期的な消毒作業、感染症拡大防止対策についての利用者からの相談に丁寧に応えるといったことを通じ、少しでも安心して催しを開催し、来館できる環境づくりに努めることができたと考えています。施設の利用実績においては、目標を下回る結果となりましたが、令和2年度の実績からは増加しており、今後、コロナ禍以前の水準まで利用が戻ることを想定した準備等に取り組んでいく必要があると考えています。

また、賑わいスペース事業の店舗営業についても大変厳しい状況でしたが、同事業者の工夫等により、店舗営業を継続することができています。岡崎地域の関係施設等とも連携し、改めて地域の価値向上につなげていけるような長期的な視点での取組も工夫していく必要があると考えています。

今後も、業務の評価についての視点を常に持ちつつ、社会状況の変化にも確実に対応し、各

事業や各業務を着実に進めていくことで、指定管理業務における目標の達成に向けた施設運営を行ってまいります。